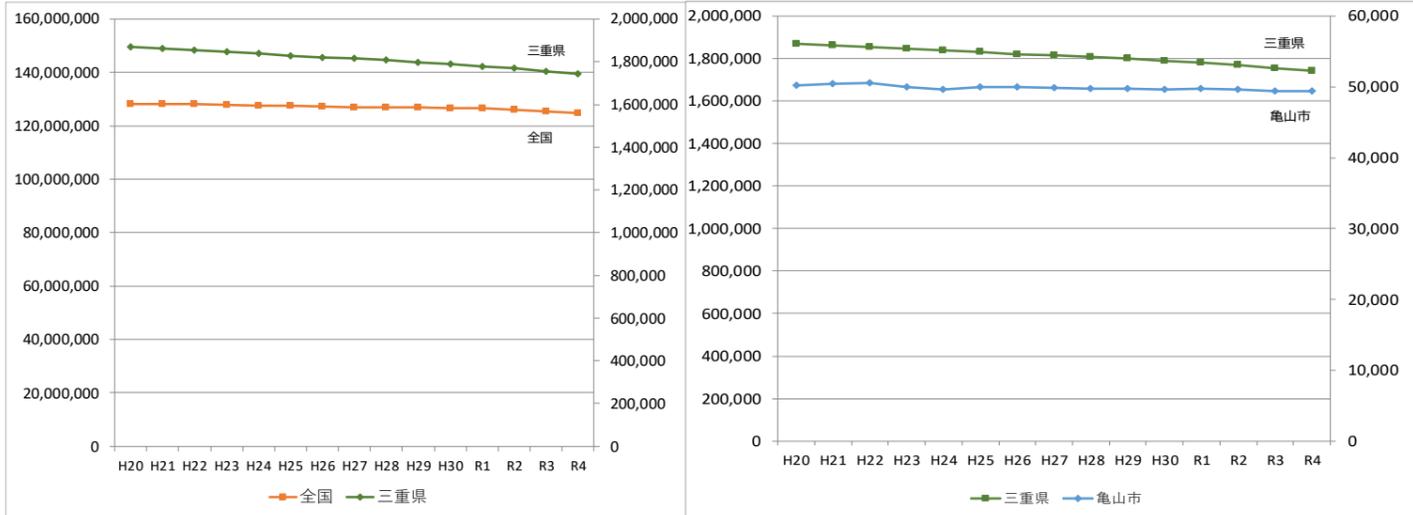


【本市の人口動態の概況】

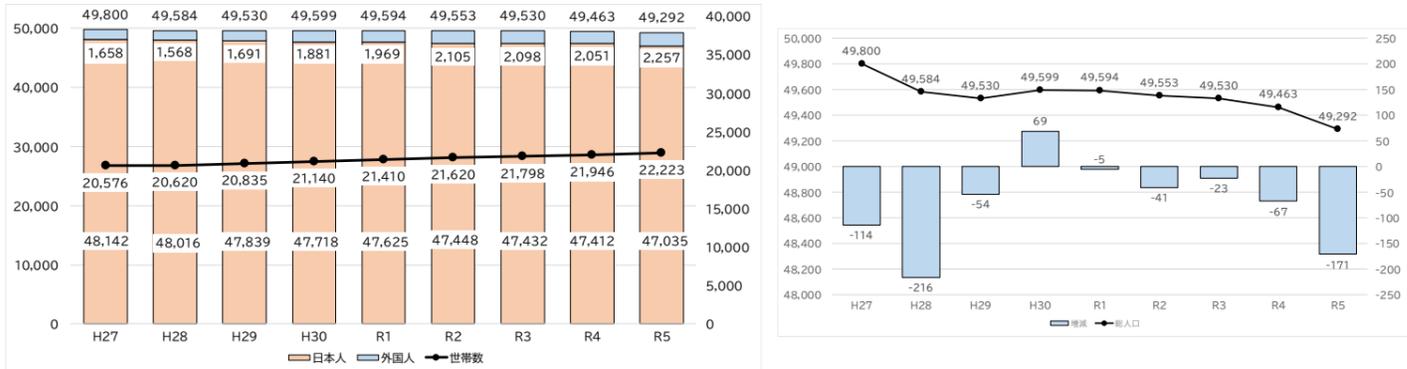
■国・県との人口の動向の比較

国・県・市のピーク人口（国・県H20 市H22）から令和4年にかけての人口増減率を比較すると、国-2.4%・県-6.8%、本市-2.1%となっており、国・県と比較すると、本市の人口減少は緩やかに進行していることが分かります。



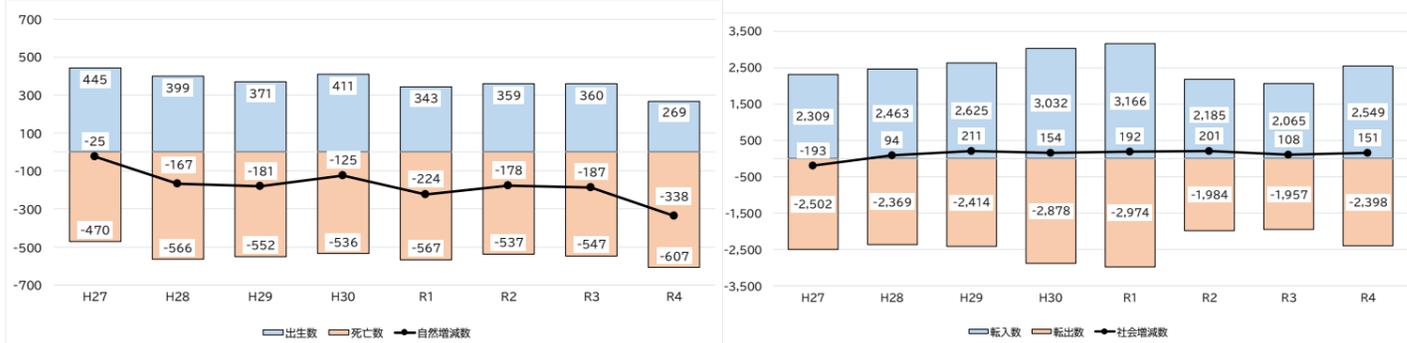
■本市の人口推移

本市の総人口は、平成28年以降概ね横ばいで推移していますが、令和元年以降は減少が続いており、近年は減少幅の拡大傾向がみられます。一方、世帯数は増加傾向にあり、人口減少と併せて平均世帯人員が減少していることが分かります。外国人人口は、増減がある中で、令和元年度以降概ね2,000人程度で推移しています。



■本市の自然増減及び社会増減

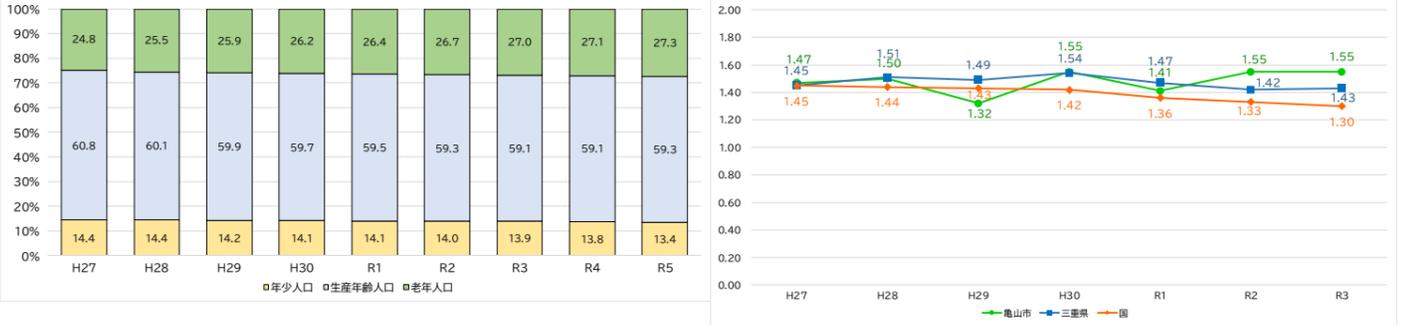
本市の人口の自然増減は、出生数が死亡数を下回るマイナスで推移しており、令和4年度には、マイナス傾向の拡大がみられます。一方、本市の社会増減は、平成28年度以降、年度平均1,500人程度の転入超過が続いています。



資料2

■本市の人口構成及び合計特殊出生率

本市の人口構成は、老年人口比率が増加し、年少人口比率が減少傾向にある中で、生産年齢人口比率は、令和2年度以降ほぼ横ばいで推移しています。また、本市の合計特殊出生率は、平成27年度以降の平均が1.48となっており、三重県平均とほぼ同じ水準ですが、国の1.39を上回っています。なお、本市及び三重県の合計特殊出生率は横ばい傾向で推移していますが、国については低下傾向となっています。



■地区別人口

本市の地区別人口は、平成23年と令和5年で比較した場合、井田川・川崎地区で増加、亀山地区で概ね横ばい、昼生・野登・白川・神辺・関・坂下・加太で減少しており、地区によって人口増減の傾向が異なります。また、地区別人口比率について、年少人口は、亀山・井田川・川崎の3地区、生産年齢人口は、井田川・川崎・神辺において本市全体の平均を上回っています。一方、老年人口は、亀山・昼生・野登・白川・関・坂下・加太で本市全体の平均を上回っており、地区によって人口比率が異なります。

